

埼玉県毛呂山町（国内3例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和5年11月30日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 基本情報

用途（飼養羽数）：採卵鶏（約4.5万羽）

発生家きん舎の構造：高床式開放鶏舎

発生家きん舎の飼養形態：ケージ飼い（ひな壇式2段ケージ10レーン、通路5本）

2 施設の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は平野部に位置しており、周囲には田畑、竹林等に囲まれ、付近には牧場や資源ゴミ工場等が存在した。
- ② 農場から約300m離れた場所にため池が存在し、調査時、カモ類が十数羽確認された。
- ③ 当該農場には、高床式開放鶏舎3棟、平飼い開放鶏舎1棟があり、いずれも採卵鶏が飼養されていた。高床式鶏舎3棟は、農場の入口付近にある事務所と屋内の連絡通路で繋がっていた。平飼い鶏舎は連絡通路で接続されず、高床式鶏舎の隣に独立していた。
- ④ 発生鶏舎は、高床式鶏舎3棟のうちの1棟であり、事務所側から繋がる連絡通路を進んだ最奥側に位置していた。

3 通報までの経緯

- ① 農場長によると、発生鶏舎での死亡鶏は通常1日当たり1～2羽程度であったが、11月29日の午前中に4羽、午後には6羽の死亡が確認され、平時よりも死亡羽数が多かったことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 農場長によると、死亡鶏は発生鶏舎内に散在しており、死亡鶏以外では異状を呈する鶏は認められなかったとのこと。調査時、発生鶏舎の死亡鶏はケージから取り出されていたが、生存鶏はいずれも活力良好であり、死亡や元気消失などの異状を示す個体は他の鶏舎を含め認められなかった。

4 管理人及び従業員

- ① 農場長によると、当該農場には従業員が9名（農場長を含む）おり、うち3名が鶏舎での飼養管理を担当、6名が集卵作業を担当しているとのこと。なお、農場長は鶏舎の全体管理を行うが、その他従業員については、鶏舎ごとに担当が決まっているとのこと。
- ② 県内に系列農場が存在するが、従業員の行き来等はないとのこと。

5 施設の飼養衛生管理

- ① 農場入口には立入禁止看板が設置されており、車両が農場に入る際は、入口に設置されたゲート式消毒装置で車両消毒を行っているとのこと。
- ② 鶏舎に入る際は、当該農場の事務所内に設置された更衣室において、鶏舎専用の作業着と長靴に交換し、事務所と高床式鶏舎を繋ぐ連絡通路で手指消毒と踏込消毒を行った上で、鶏舎に入っていたとのこと。
- ③ 事務所の建物と高床式鶏舎の接続部分には扉が設置されており、夜間は閉鎖していたとのこと。また、高床式鶏舎3棟の間にも扉があるものの、常に開放していたとのこと。
- ④ 鶏舎管理の担当者は、午前に鶏舎内を見回り、鶏の健康観察と死亡鶏の回収作業、給餌ライン上にたまった飼料の偏りを均等にならす作業等を行っていたとのこと。

午後は、鶏舎内の清掃を行いつつ、午前と同様健康観察等をしていたとのこと。

- ⑤ 飼料は、鶏舎外に設置された飼料タンクからパイプラインで運ばれ、自動給餌機により供給されていた。なお、パイプラインは閉鎖系となっており、飼料タンクの上部には蓋が設置されていた。
- ⑥ 飼料搬入業者が入場する際は、飼料タンク前で持参した長靴に履き替え、飼料の補充作業を行っていたとのこと。
- ⑦ 給与水には、貯水槽にためた井戸水を未消毒で使用しているとのこと。なお、貯水槽の上部には金属の蓋が設置されていた。
- ⑧ 高床式鶏舎の1階部分に堆積した鶏糞は、3～4週間に一度、1階部分の扉を開けて重機で搬出するとのこと。その後、鶏糞は農場敷地内の堆肥舎で発酵処理され、完成した堆肥は、農場の従業員が自ら近隣の農家に配布していたとのこと。
- ⑨ 各鶏舎は、冬場は基本的に全てのカーテンを閉めているが、換気のために毎朝1時間程度カーテンを開けているとのこと。なお、各鶏舎には、全面に金網（1.5cm×2cm程度）が設置されており、いずれの鶏舎においても金網の破れなどは確認されなかった。
- ⑩ 死亡鶏は、午前の見回りの際に回収し、その日のうちに農場内の死鳥処理装置で処理され、農場内の堆肥舎で鶏糞と一緒に堆肥化していたとのこと。なお、堆肥舎には防鳥ネット（約1.5cm角）が設置されていた。
- ⑪ 鶏卵は、集卵担当者により回収され、トレーに入れて事務所内手前にある鶏卵保管場所まで台車で運搬していたとのこと。その後、外部の集卵車両に積載され、系列のGPセンター等に出荷されるとのこと。また、健康観察の際に不良卵を見つけた場合は、高床式鶏舎1階部分の鶏糞置場に捨てていたとのこと。

6 野鳥・野生動物対策

- ① 農場長によると、野鳥についてはあまり見かけることはなく、見かけた場合はロケット花火等で追い払っていたとのこと。調査時、農場敷地内の上空でセキレイ類、スズメ類、ムクドリ類の小型野鳥を数羽確認した。
- ② 農場長によると、農場内ではネコなどの小動物は殆ど見かけることはないとのこと。調査時、農場内には野生動物の糞や足跡等の痕跡は確認されなかった。
- ③ 周辺に池や田畑など、野生動物に好まれる環境があることから、日頃から警戒しているとのこと。鶏舎の屋根部分には複数の野鳥避けが設置され、堆肥舎や鶏舎の裏側等には、野生動物を威嚇するための爆音機が複数設置されていた。
- ④ 農場長によると、鶏舎内でネズミを見かけたことはないが、倉庫には出没するため、殺鼠剤を使用しているとのこと。調査時、鶏舎内にネズミの侵入の痕跡は認められなかった。

（以上）